

## 【スポーツ分野の統括業務及び事業の実施状況について】

### ①第1回スポーツ推進機構本部会議 四国大学スポーツ振興のための組織

学長を本部長とする全学組織として「四国大学スポーツ推進機構（SUスポ）」を立ち上げ、スポーツアドミニストレーター1名を任命・配置し、アシスタントスポーツアドミニストレーター1名を新規雇用するなど、体制整備し事業を開始した。平成31年4月に新設したスポーツ健康館にその推進拠点を設置している。

#### 【四国大学スポーツ推進機構・本部役員】

	役職名	氏名	所属	
本部長	学長	松重 和美		
副本部長	事務局長	佐野 義行		
本部員	学部・学科等から選出された者	高村 茂	人間生活科学科	
		大野 宏之	経営情報学科	
	全学共通教育センター、施設課、社会連携推進課、学生支援課、大学広報戦略室から選出された者	平田 英治	全学共通教育センター	
		東 亜弥子		
	本部員	本部員	楫 完治	施設課
			大久保 正信	社会連携推進課
			出越 雅子	学生支援課
			今出 知佐	大学広報戦略室
事務局	本部員が必要と認める者	山中 一剛	スポーツアドミニストレーター	
	事務局責任者	中田 寛志		
	事務局担当	中田 恵莉子		
	事務局員	田坂 美保	アシスタントスポーツアドミニストレーター	

- ・日時 令和元年11月13日（水）16:00～17:00
- ・場所 スポーツ健康館1階 ミーティングルーム
- ・議題 ①大学スポーツ振興の推進事業（大学SA配置事業）事業説明について  
②上記事業に対する助言及び質疑について  
③その他



四国大学スポーツ推進機構（SUスポ）本部会議

## ②ソフトテニスクリニック スポーツ教育の推進

- ・日時 令和元年11月23日(土)、令和元年11月24日(日) 9:00~16:00
- ・場所 四国大学日ノ上グラウンドテニスコート
- ・参加者 23日(土) 徳島県内高等学校6校より34名  
24日(日) 徳島県内中学校9校より60名
- ・講師 高月拓磨選手(ヨネックス株式会社所属)
- ・概要 両日とも1日を通してウォーミングアップから基本的な技術練習、実践で使える応用練習に加え、実績を残すために必要な考え方や取り組み方等、幅広い分野において高月選手の経験も交えながら丁寧に指導していただいた。また、本学ソフトテニス部においても男子監督黒羽を中心に女子コーチ木村及び部員15名が講習補佐を行い、参加者の競技向上に尽力した。
- ・成果 徳島県内では全日本トッププレイヤーの技術を目の当たりにしたり、指導を受ける機会が少ないこともあり、参加した中学・高校生は高い意欲を持って高月選手の指導に聞き入っていた。また、以前より中学・高等学校の指導者より「四国大学では是非ソフトテニス講習会を実施してもらえないか」という要望が多数あり、指導者からも大変好評であった。本学のテニスコートに初めて訪れた生徒・指導者がほとんどであり、充実した施設での講習や学生との触れ合いを通して四国大学ソフトテニス部の良さを十分感じてもらった。これまで徳島県ソフトテニス関係者は中学・高等学校で競技実績を残した選手の県外への流出に歯止めがかからない状況が続いてきたが、このような事業を通して本学ソフトテニス部が地域と共に発展することで、上記状況が打破できると思われるので、今後もこうした事業の定期的な開催を検討していきたい。



ウォーミングアップ



実技指導

## ③スポーツリーダー・キャリア研修会 学生アスリートのキャリア形成支援

- ・日時 令和元年11月30日(土) 12:30~16:30
- ・場所 国立淡路青少年交流の家(兵庫県南あわじ市)
- ・参加者 四国大学各部・サークルの代表者 72名(1名当日体調不良で欠席)
- ・概要 第1部 「で?あなたはどうしたいの?」  
瀬戸昌宜氏(NPO法人SOMA代表理事)  
第2部 「本学の日本一経験者を囲んで」トークショー(パネルディスカッション)  
中田恵莉子(陸上投擲)、黒羽祥平(ソフトテニス)  
木村理沙(ソフトテニス)、辻 紀子(弓道)

- ・ 成果 第1部は講師の瀬戸昌宜氏が、学生に主体性を持たせるためにはどうしたらいいか、ワークシートやパワーポイントを利用して頭と体を動かしながらの研修活動を実施した。9名のグループを8グループ作り、グループのディスカッションの中でコミュニケーション能力を高める研修に、学生たちは積極的に取り組んでいた。その中で徐々に「あなたの人生の主演は誰？」ということ自分の過去と未来を掘り下げて考えることにより、「人生は自分で始めなければ人生でない」という考えに近づく学生の姿が多く見られた。また、劇的に変化する日本の実態を考え、この時代をどう生きるかという視点の中でも主体性の重要性を感じさせてくれた。学生たちにとって、自己や社会を見つめ、そこからどう生きるべきかの示唆を与えてくれる有意義な研修になったと感じた。今後も、学生の主体性やコミュニケーション能力、考える力を養う研修を通じて自立した社会人として本学を巣立っていけるようサポートしていきたい。



講義



グループワーク

第2部は、第1部から関わってくれたフリーアナウンサーの曾谷浩隆氏の司会と四国大学職員の4名の日本一経験者のパネラーのトークに会場は大いに盛り上がった。パネラーに対して日本一までの道のり、競技経験で得たもの、座右の銘、トレーニング休養、ルーティーン等を聞き出すことによって学生たちが共感・共鳴する場面が多く見られ想像以上の充実した時間となった。質疑応答では、実際に高等学校で部活動のコーチングをしている学生や、部活動に取り組む中での悩み等にパネラーの4名が丁寧にわかりやすく答えてくれた。最後に学生へのアドバイスでは、自らの経験に基づいた元気が出る情熱のある言葉で語りかけてくれた。研修後の会話で、パネラー4名への尊敬と親近感を覚えた学生が多く見られたことは、学生たちのリーダーとしての在り方を考える機会になり、四国大学生としての誇りにもつながったと感じられた。もう少し話を聞きたいという学生もいたので、今後は少人数の座談会形式のディスカッション等も検討したい。



パネルディスカッション



質疑応答

#### ④SHIKOKU SPORTS FESTIVAL 2019 大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化

- ・日時 令和元年12月8日(日) 13:00~16:00
- ・場所 四国大学(共通講義棟R101、日ノ上グラウンド、体育館、しらさぎ球技場)
- ・概要(強化指定競技6競技)

##### ◇陸上競技部(参加人数49名(小学生))

小学生を対象に「陸上競技の七種競技体験」を通じて、陸上競技の魅力を感じてもらおうとともに子供たちの体力向上を目的に実施。今回は小学生の安全面の配慮のため、3種目(ハードル、砲丸投げ、やり投げ)はアレンジして行い、参加者に楽しさを感じてもらえる工夫をした。

##### ◇弓道部(参加人数15名(高校生))

未体験者向け、経験者向けの2つのコースを設定。未体験者コースの参加者は無かったため、経験者を対象に交流試合や練習会を行なった。

##### ◇女子バレーボール部(参加人数16名(一般1名、中学生12名、小学生3名))

体育館に2面ネットを張り、片方のコートでは、本学の学生が主導でバレーボールの経験年数に応じた体験会を行った。最後は、学生と体験会の参加者4名が2チームに分かれて、簡単な試合を行った。もう一方のコートではJOC選抜の中学生と交流試合を実施した。

##### ◇ソフトテニス部(参加人数18名(高校生15名、中学生2名、小学生1名))

高校生には合同練習や技術講習、小中学生にはソフトテニス体験を行なった。男子高校生は男子部との合同練習および男子部監督による技術講習を実施し、女子高校生については女子部との合同練習を行なった。また中学生および小学生に対しては女子部コーチと女子部学生によるソフトテニス体験を行った。

##### ◇女子サッカー部(参加人数5名(小学生5名))

レクリエーションゲームとサッカーの実践をして参加者に楽しんでもらった。

##### ◇女子ラグビー部(参加人数19名(高校生15名、中学生1名、小学生3名))

中高生グループと小学生グループの2つに分かれて実施。中高生グループでは、タグゲームを中心に行った。小学生グループでは、鬼ごっこや基本的なパスの練習、タグのミニゲーム、ラインアウトやタックルの体験会も行なった。



**四国大学の名前入り  
スポーツドリンク・スティックパルーン**



・成果

◇陸上競技部

参加者からは非常に喜んでもらえる事業となり、今後も実施してほしいという声も聞かれた。イベントに携わった陸上競技部員も指導することの楽しさや難しさを感じつつ、事業を成功させた達成感も味わうことができ、人間的成長につながったと感じた。

◇弓道部

交流試合では僅差で勝敗が決定する試合が多くあり、「今後の大会に向けていい練習になった」と参加高校顧問の先生からお言葉を頂いた。全体を通して本学学生と参加高校生の親睦が深まり、有意義な時間を過ごすことができた。

◇女子バレーボール部

体験会に参加の4名は「分かりやすく教えてくれたので、上手くできるようになった。楽しかった。」という感想であり、父母からも「また来年あったらぜひ参加させていただきたい。とてもよかった。」という声が聞かれた。中学生との交流試合でも、引率の先生から「高校とは練習試合をすることがあってもなかなか大学と試合をする機会がないので、いい経験になりました。」という言葉をいただいた。また本学学生にとっても、体験会・交流試合を通して、地域の方々との交流、経験の有無や経験年数に応じた対応など、いい勉強になったと思われる。

◇ソフトテニス部

合同練習に参加した高校の顧問からは大変感謝され、体験した生徒・児童からも「楽しかった」等の声が聞かれるなど、学生・指導者数を活かし、各カテゴリー生徒のニーズに合った練習・体験を実施することができた。参加者には練習・体験のみならず大学の取組説明や本学の施設を使用して頂き大学として良いPRになったと思われた。

◇女子サッカー部

地域の子供たちが大学生と一緒にスポーツをすることにより、大学スポーツへの関心と普及が広がった。

◇女子ラグビー部

当日は怪我人もなく、参加した小中高生や保護者からも「楽しかった」という声が多く聞かれ参加者全員に満足していただくことができた。指導にあたった女子ラグビー部員たちも参加者と楽しい時間を過ごすことができた。また今回のイベント開催にあたり、企画・立案から準備・実施までと、とても良い経験ができた。





令和元年 12 月 9 日 徳島新聞朝刊

⑤大学フットボール対抗戦 2019 大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化

- ・日時 令和元年 12 月 14 日 (土) 8:30~16:00
- ・場所 四国大学しらさぎ球技場
- ・参加者 四国大学女子ラグビー部 18 名  
 四国大学女子サッカー部 17 名 (マネージャー 2 名を含む)  
 追手門学院大学女子ラグビー部 13 名  
 追手門学院大学女子サッカー部 23 名  
 四国大学チアリーディング部 8 名
- ・概要 四国大学と追手門学院大学の 2 大学による女子サッカーと女子ラグビー競技の大学対抗戦を四国大学しらさぎ球技場で実施した。前半に女子ラグビーの試合を行い、チアダンスのパフォーマンスを間に入れて後半は、女子サッカーの試合を行った。両試合ともに拮抗した内容で多いに盛り上がった。また、自チームへの応援にもお互いに力が入った。学生や四国大学の OG も対抗戦の運営に積極的に関わった。
- ・成果 「みる」「する」「ささえる」の 3 つの視点から学生が積極的にイベントに関わることでより大学スポーツの普及と振興を推進すると同時に大学への愛着心を醸成することができた。また、両校が、スポーツで交流したことによりこれをきっかけにして今後の大学同士の発展につながっていくと感じた。



徳島新聞朝刊  
令和元年 12 月 15 日



女子ラグビー



女子サッカー

## ⑥ 栄養指導 学校を訪問して栄養指導

### 【第 1 回栄養指導】

- ・ 日時 令和 2 年 1 月 1 9 日 (日) 10:00~17:30
- ・ 場所 藍住町民体育館
- ・ 参加者 県 U13, 14 選抜女子バスケットボール部員 30 名
- ・ 概要 県内選手の競技力向上のためには、育成年代への様々な面からのアプローチは大変重要な時期である。この時期の成長・発達はきわめて個人差が大きく、発達年齢への考慮、生涯にわたっての食習慣を形成する大事な時期であることが著しい。身体について様々な項目について測定を実施することにより、自身の身体の状態を知ること、今後に繋げていくものである。
- ・ 成果 管理栄養士養成課程の学生 2 名参加し、身長、体組成測定 (In Body)、骨密度測定、ヘモグロビン濃度測定を実施。現場においては、短時間での測定する必要性、データの見方等の説明についても体験することができた。  
各選手にデータの見方を説明し、測定データから各選手の栄養状態の確認を行なった。あわせて、月経関係に関するアンケートにより、徳島における実態調査を実施、今後につなげていくことができるのではないかと考える。



### 【第2回栄養指導】

- ・日時 令和2年2月14日（金）16:00～18:00
- ・場所 藍住東中学校
- ・参加者 中学生女子バスケットボール部員10名
- ・概要 思春期は、心身ともに成長・発達が著しく、この時期に丈夫な骨格を得ることは、骨折などの予防に重要な役割を果たす。成長発達と生活習慣が骨量に影響を与えやすいと考えられる女子中学生を対象とし、基本的な身体を作り、コンディションを自己管理できるように食事に対する意識や行動変容につながることを目的として実施した。
- ・成果 体組成測定（In Body）等の測定を実施。測定をする意義、現在の選手としての身体がどうあるべきかについても説明し、理解してもらうことができた。各選手にデータの見方を説明し、測定データから各選手の栄養状態の確認を行なった。あわせて、月経関係に関するアンケートも行った。今回は、単発での開催となったが、今後も中学校と連携し、継続的に測定調査を実施していく予定にしている。



### ⑦女子ラグビークリニック 大学スポーツを通じた地域貢献、社会貢献

- ・日時 令和元年1月19日（日）13:00～15:30
- ・場所 四国大学しらさぎ球技場
- ・参加者 30名（大学生17名、高校生12名、中学生1名）
- ・概要 日本協会より座学と実技の講師2名を派遣していただき実施。座学では、女子選手に多い前十字靭帯損傷（ACL）の予防に関して「ACL 損傷予防について」と題した講義をしていただき、実技では、個人のコンタクトプレーの向上などに着目したトレーニングメニューの実践をご指導いただいた。
- ・成果 参加した女子選手全員が怪我の予防に対する知識・意識の大切さを学ぶことができた。予防トレーニングを実践したことによって怪我に対する予防意識の向上にも繋がった。実技講習では、大学生と高校生と中学生が一緒にトレーニングに参加した。メニューによっては大学生、高校生、中学生が同じチームを組んだりもして世代を超えた交流をすることができた。



実技指導



ACL 講習会

## ⑧陸上競技（投擲）クリニック スポーツ教育の推進

- ・日時 令和2年1月25日（土）9:30～15:30
- ・場所 四国大学日ノ上陸上競技練習場
- ・参加者 30名（県内外中高生）
- ・概要 投擲種目で全国トップレベルの高校である生光学園高校を拠点とした徳島投擲練習会の指導者2名を講師として依頼。円盤投は林英司氏、砲丸投は豊永陽子氏。徳島陸上競技協会のHPに実施要項および申込書を掲載してもらい、リーフレットも県内外の中学校・高校に送付するなど広く募集をかけた。午前中は、円盤投はウエイトトレーニングや基礎ドリル・砲丸投は投擲練習を行い、午後練習では、円盤投が投擲練習、砲丸投は基礎ドリルや基礎体カトレーニングを行った。冬季練習で行えるトレーニングや、試合での緊張感やモチベーションについてなど、トレーニングだけでなく選手として活躍するために必要な競技以外の能力についても熱心に指導していただいた。
- また、本学陸上競技部員25名が講師の指導補助や参加者の練習補助につき、クリニックの質が上がるよう実施した。投擲の講師を学外から招き、中高生を対象にクリニックを実施する中で、砲丸投げと円盤投げを経験してもらった。
- ・成果 生光学園の指導スタッフは、全国トップレベルであるため、なかなか個人的にその門をたたいて練習を申込み選手は少ない。実際に指導を1度も受けたことがない選手がほとんどで、その指導に刺激をもらって帰った選手ばかりであった。また、県外の先生で指導を実際に見たいという方もおり、県内だけでなく県外の方にも興味のあるクリニックであったことが分かった。国内トップレベルの指導・世界レベルの技術を同時に肌で感じる事ができ、参加した中高生だけでなく引率者の先生方も積極的に助言を聞いていた。本学が主体となってスポーツ事業を行い、徳島でもスポーツができる・強くなれることを証明することが競技人口の増加や地域活性化につながっていくのではないかと感じた。来年度以降も是非イベントを実施していきたい。



投擲専用練習場



林英司氏の講話



陸上競技クリニック参加者

## ⑨第2回スポーツ推進機構本部会議 四国大学スポーツ振興のための組織

- ・日時 令和2年2月13日(木) 13:30~14:30
- ・場所 スポーツ健康館1F ミーティングルーム
- ・出席者 松重本部長他10名(欠席者 楫施設課主査)
- ・概要

(成果と課題)

### ①事業の趣旨・目的の確認

事業の趣旨について確認した後、事業内容の大学スポーツにおける先進的モデルの企画・立案及び実施については、本学では提示内容の6つ全てを反映し、企画立案しているとの説明があった。

### ②実施事業の成果と課題について

〈課題〉

- ・スポーツリーダー研修の場所を、次年度新設される「しらさぎ球技場」のセミナーハウス(80名使用可)を活用してはどうかという提案があり、学生支援課と施設課で検討することになる。
- ・「SHIKOKU SPORTS FESTIVAL 2019」の開催時期が、今年度は中高生の期末考査時期と重なっていたため、次年度は時期を考慮することになる。
- ・フットボール対抗戦は、次年度は追手門学院大学に行く方向で考えている。この企画は全国的にも珍しく試合の質も高いのもっと集客に向けて工夫をする。
- ・陸上競技クリニックは、県内外より投擲関係者(指導者も含む)が大勢参加してくれた。日ノ上投擲練習場の評価も高かった。今後もより充実させていきたい。

### ③大学スポーツアドミニストレーターの配置について

〈課題〉

- ・大学全体としてのスポーツ分野の運営・統括に種々の課題が生じ始め全体調整を行える体制・人材配置が必要となってきたことが課題となっているため、今秋に四国大学スポーツ振興機構を立ち上げ、スポーツアドミニストレーター(SA)を配置することとなった。
- ・SAの人材発掘、育成が重要である。最初の計画では2名配置と言うことであったが年度途中での雇用と言うこともあり、現実的にはスポーツ庁が望むSAが機能していくには、人材発掘と育成が重要であり熟練を要する業務である。

#### ④新規事業について

- ・スポーツアドミニストレーターを配置することには変更はないが、外部とコンソーシアムを形成し、外部資金獲得のための企画・立案や地域活性化に資するイベント等の企画立案・実証事業を行うことが条件に挙げられていると説明があった。

#### ⑤その他

- ・SAが1名不足していることから、山中SAが業務を負担していることもありエフォート率で人件費を考えている。現在、殆どの事業が終盤に向かっているが、予算を超えることなく、それに近い金額で執行できそうであることが報告された。
- ・一般管理費の用途については、日ノ上運動場としらさぎ球技場のフェンス等に、外部にPRできるような運動場や球技場の名前の入った横断幕のようなものを作成するのはどうかとの意見に、施設課とも相談の上検討することになった。



第2回本部会議

### ⑩ボランティア活動 スポーツボランティアの普及啓発

- ・日時 令和2年2月15日（土）10:00~12:00
- ・場所 月見が丘海浜公園
- ・参加者 小学生20名、保護者32名 計52名
- ・概要 プロ野球独立リーグ・四国アイランドリーグplusに所属する「徳島インディゴソックス」の選手（上原選手・服部選手）が、野球を通じて子どもの体力向上を図る事業として「野球 de 体力UP」事業の運営を手伝った。選手たちは、鬼ごっこから始まり、ボールを投げる、バットで打つなどの野球の基本技術をわかりやすく教えてくれた。そのサポート役として四国大学女子サッカー部員と女子ラグビー部員が運営のボランティアに携わった。曇天で天気が危ぶまれたが、事業終了までは雨もなく最後のティーボールの試合の後は充実感にあふれていた。
- ・成果 学生の所属している部（サッカー、ラグビー）のボランティア活動としての社会・地域貢献活動は経験がある部員であるが、他競技のボランティアは初めてであった。インディゴの選手やスタッフとも打ち解け、運営を主体的にサポートすることもできた。子どもたちは、体を動かしボールやバットを使って大喜びで元気に参加していた。参加者は子どもであるが子どもたちを見守る保護者の方も楽しんでいる姿が印象的であった。少し苦手な子どもにも、丁寧に声をかけ一緒に取り組む姿も見られた。事業後に保護者の方から感謝の言葉をかけられていたことから伺い知れる。これからも、大学や競技の中だけでなく、ボランティアを通じていろいろなスポーツに関係している人との繋がりを大切にすることを実感できる機会（事業）を考えていきたい。



月見が丘海浜公園

## ①STAR プロジェクト情報交換会 学生アスリートのキャリア形成支援

- ・日時 令和2年2月19日(水) 19:00~21:00
- ・場所 ホテルクレメント徳島
- ・参加者 STAR プロジェクト賛同企業より参加者 51名  
四国大学経営陣・教職員・学生 42名 合計 93名
- ・概要 本学では、大学スポーツの振興、徳島発トップアスリートの育成、学生アスリートのキャリア教育を積極的に推進するというコンセプトを持つ四国大学スポーツ人財育成STAR プロジェクトを立ち上げている。地元企業・団体・自治体81社の会員加盟があり(令和2年2月10日現在)、経営者や人事担当者等と学生アスリートや指導者との交流、大学スポーツやスポーツによる地域振興等について意見交換する会合を開催し、学生のキャリアイメージの形成支援や、就職活動のサポートを行っている。大学スポーツ振興の推進事業開始後は、本プロジェクトの更なる充実を図るため、学生自身が競技部の戦績及び活動内容や地域貢献活動についてプレゼンテーションし、加盟団体のうち、強化指定競技部出身者を雇用している企業の取締役や人事担当者からコメントをいただく内容に発展させた。  
進行は二部制とし、第一部は、本学の経営陣の紹介、徳島県知事からの来賓代表挨拶、学長からの本学スポーツ分野強化の現状についての説明の後に、学生による一般社団法人 大学スポーツコンソーシアム KANSAI 学生委員会での話題提供の発表や、今年度の各部の活動報告を行った。第二部では、参加企業の方と学生が同じテーブルで食事を囲んで懇談会を実施し、企業の方や卒業生が就職した企業の方からコメントをいただいた。(なお、第二部に係る経費は、大学予算より支出した。)
- ・成果 会場の準備から受付、司会進行、活動報告のプレゼンテーション、参加者のお見送りまで全て学生主体で行った。出席した学生らは、この日の競技活動報告のために、SAや教職員の指導のもとプレゼンテーションの練習を重ねてきた。本番になると緊張した姿が見受けられたものの、自身が取組んできた成果について誇りを持って話すことができ、賛同企業の出席者の方々も真剣に耳を傾けていた。第二部の懇親会では、大学が用意した学生個人の名刺を持ち、自ら賛同企業の参加者に声をかけ名刺交換を申し出て、日頃の練習の様子や将来の競技活動や就職の展望などの会話を積極的に行っていた。第二部後半では、卒業生が就職した参加企業の方に登壇いただき、採用理由や仕事の活躍ぶりについてコメントを頂戴した。実際にスポーツ学生を採用した実績のある企業の生の声

は、学生にとってはこれからの就職活動の励みになり、企業側にとってもスポーツ学生雇用の魅力を感じ取ってもらえたと感じる。今後も、賛同企業を増やし、スポーツ学生の有為性を知ってもらうと同時に、卒業後の県外流出を食止め、地域活性化に繋げていきたい。



受付



活動報告発表



名刺交換



懇談

## ⑫外部評価委員会 外部評価による次年度以降の事業改善

- ・日時 令和2年2月27日(木) 17:30~19:30
- ・場所 スポーツ健康館1階 ミーティングルーム
- ・参加者 委員5名  
藤井敬久氏は急な校務のため欠席

	役職	氏名	現職	備考
1	委員長	中塚 健太郎	徳島大学准教授	学識経験者
2	委員	分木 秀樹	県体育協会専務理事	スポーツ行政関係者
3	委員	藤井 敬久	県高等学校体育連盟会長	学校体育関係者
4	委員	南 啓介	徳島インディゴソックス球団代表	プロスポーツ関係者
5	委員	山上 文子	県スポーツ栄養士協会会長	スポーツ科学関係者
6	委員	高杉 繁樹	徳島新聞社運動部長	報道機関関係者

- ・概要 (配付資料)
  - ①外部評価委員(冊子)
    - ・外部評価委員名簿

- ・外部評価委員設置要綱
- ・各実施事業の概要と成果

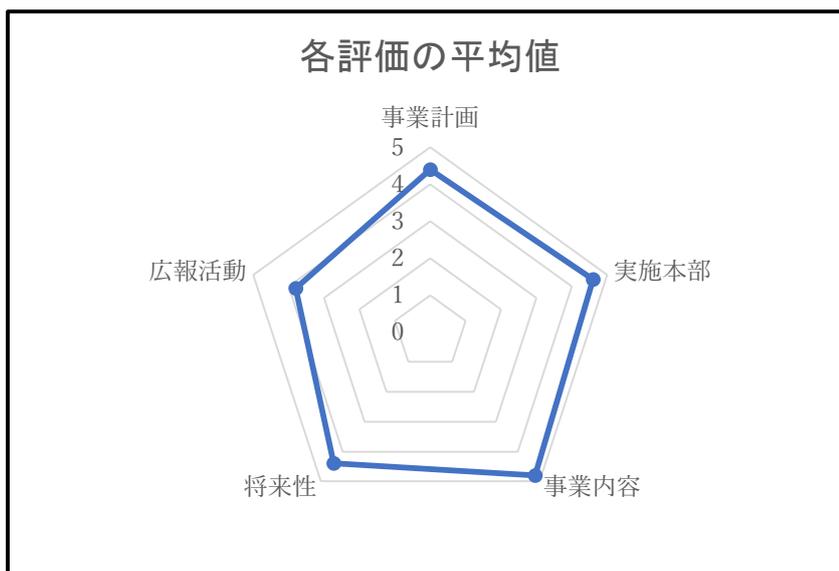
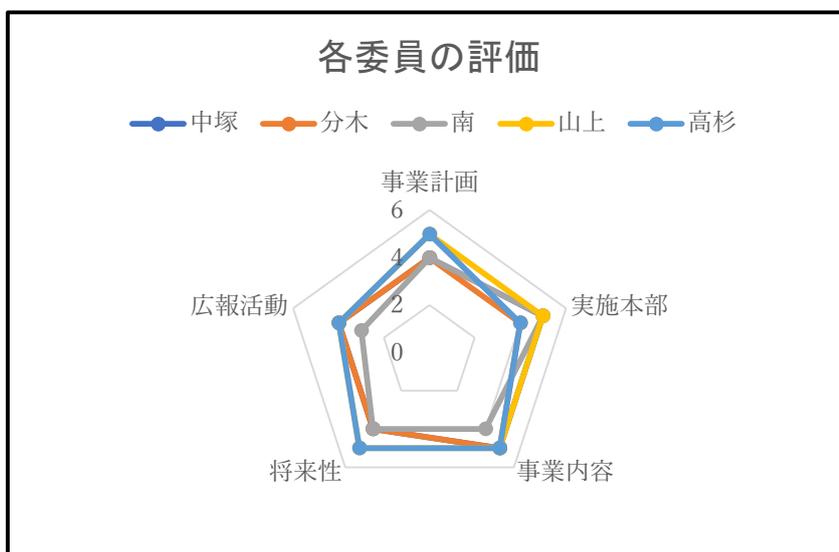
②資料1-①実施事業における「する・観る・支えるスポーツ」の割合  
資料1-②上記の円グラフ

③事業実施表

④外部評価シート

委員5名からの本事業についての多角的な視点からの評価により、今後の大学におけるスポーツの在り方を考える機会として捉え、大学のスポーツ振興の推進につなげることを目的として開催した。各委員から、各種事業の説明に対して事業内容の質疑や提案等が行われた。協議では、各分野の視点から活発な意見が出された。

・成果（評価の結果及び考察）



## 【反省・今後の取組】

- ① 広報活動の充実を図る必要あり。
  - ・ 共通のコンテンツから発信してツイッターを有効活用する。フォロワーを増やしていく。
  - ・ YouTube で発信も検討する。(よりインパクトがある。)
  - ・ 大学のHP で強化指定競技の6部のアカウントをつくり発信することからはじめる。
- ② 「する」「観る」「支える」のバランスをどう考えるか。
  - ・ バランスの中で特化することも大学のオリジナリティーになる。
  - ・ 競技によりバランスの偏りがあるのは、その競技のもつ特性でもある。
  - ・ 一概に全体でバランスをとるよりは、各競技の特性に応じた目標にして数値化する。
  - ・ 今年は初年度なので、次年度よりこの結果を踏まえ比較検討していく。
- ③ 学生が主体的に企画・立案・運営に関わる必要あり。
  - ・ 今回の事業はタイトな日程で、教職員が主導で企画から運営までしてきた。
  - ・ 学生の自治の観点からも主体的な人間形成を目指すためにも主体性を持たせる。
  - ・ 学生に主体性の自覚を持たせることでロコミの広報にも繋がる。
  - ・ 各事業の会場でアンケートをとり実態調査の必要もある。(方法も考えて)

## ⑬ 四国大学オリジナルグッズ開発 大学スポーツを活用した収益事業

- ・ 概要 今年度は四国大学強化指定6競技全体のエンブレムである「イーグレッツ」をモチーフとしたグッズを作成し、来年度以降は収益事業化できるように寄付行為定款の改定を含め検討している。フェスティバル等で四国大学オリジナルのスポーツドリンク、スティックバルーンを作成した。



徳島新聞朝刊 令和2年3月5日

### ⑬ スタッフミーティングの開催

- ・概要 それぞれの事業に担当者を決め、担当者が企画・立案した事業計内容や事業予算等について協議するためのミーティングをスタッフ9名で開催した。2週間に1回のペースであったが、事業だけでなく、各スタッフを中心に組織横断的、競技横断的な情報交換・意見交換が行えたことは大きな収穫であった。

SA (スポーツアドミニストレーター)	山中 一剛	全学教育共通センター 強化指定部 (女子ラグビー) 顧問
ASA (アシスタントアドミニストレーター)	田坂 美保	学生支援課 事業の雇用
事務局	中田恵莉子	学生支援課 強化指定部 (陸上競技) 顧問
運営スタッフ	今出 知佐	大学広報戦略室専門官
	中田 寛志	学生支援課主幹
強化指定部代表	平田 英治	全学共通教育センター 強化指定部 (女子サッカー) 顧問
	黒羽 祥平	就職キャリア支援課 強化指定部 (男子ソフトテニス) 顧問
研究関係代表	東 亜弥子	スポーツ栄養士
	大野 宏之	スポーツマネジメント専門 (准教授)